

第2回鶴岡市地域まちづくり未来事業検討会議（会議録）

- 日 時 平成30年9月26日（水） 午後3時から
- 会 場 鶴岡市役所本庁舎 3階 議会委員会室
- 次 第
 - 1 開会
 - 2 委嘱状の交付
 - 3 会長あいさつ
 - 4 説明及び協議
 - (1) 地域まちづくり未来事業について
 - (2) その他
 - 5 その他
 - 6 閉会
- 出席委員
山口朗（会長）、長南吉美、田中正志、井上佳奈子、百瀬清昭、齋藤源一郎、成田勇、宮城良太、長南達夫、伊藤弘光、忠鉢孝喜、齋藤武大
- 欠席委員
石川均
- 市側出席職員
総務部長 高橋健彦、企画部長 高坂信司、市民部長 白幡俊、藤島庁舎支所長 武田壮一、羽黒庁舎支所長 國井儀昭、櫛引庁舎支所長 佐藤浩、朝日庁舎支所長 工藤幸雄、温海庁舎支所長 渡会悟、総務部財政課長 佐藤豊、総務部職員課長 渡部功、総務部職員課主幹 五十嵐泰彦、企画部地域振興課長 鶴見美由紀、市民部コミュニティ推進課長 渡邊健、藤島庁舎総務企画課長 菅原司、羽黒庁舎総務企画課長 伊藤義明、櫛引庁舎総務企画課長 宮崎哲、朝日庁舎総務企画課長 土田浩和、温海庁舎総務企画課長 粕谷一郎、総務部財政課主査 渡部幸一、総務部職員課課長補佐 佐藤清一、総務部職員課職員主査 伊藤智康、総務部職員課職員専門員 菅原明宏、総務部職員課主事 佐藤直豊、企画部地域振興課地域振興専門員 本間育子、市民部コミュニティ推進課課長補佐 金内房夫、藤島庁舎総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優、羽黒庁舎総務企画課地域まちづくり企画調整主査 観世安司、櫛引庁舎総務企画課地域まちづくり企画調整主査 遠藤直樹、朝日庁舎総務企画課地域まちづくり企画調整主査 五十嵐孝義、温海庁舎総務企画課地域まちづくり企画調整主査 伊藤隆
- 公開・非公開の別 公開
- 非公開の理由 ー
- 傍聴者の人数 2人（報道機関を除く）
- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
- 3 会長あいさつ

4 協議

(1) 地域まちづくり未来事業について

①事務局説明

幹事

(資料 1、2 ページに沿って説明。)

※以下、資料 3～7 ページで、各地域の企画について、各庁舎の幹事が説明。

資料には、左ページ上段に各地域の「現状と課題」、左ページ下段に、現状と課題に対する「施策の方向」、右ページには施策の方向に基づく具体的な「検討イメージ (事業内容)」を掲載している。

幹事

(資料 3 ページに沿って説明)

幹事

(資料 4 ページに沿って説明)

幹事

(資料 5 ページに沿って説明)

幹事

(資料 6 ページに沿って説明)

幹事

(資料 7 ページに沿って説明)

幹事

(鶴岡地域における地域まちづくり事業の進め方について、資料 8 ページに沿って説明)

- ・[概要]鶴岡地域では、21 の広域コミュニティ組織 (コミセン) 単位で実施するプロジェクトに対する補助制度 (10 割補助) として実施するイメージである。計画期間は 3 年間の上限を設ける。

②質疑・意見交換

委員

- ・羽黒地域の検討イメージ No. 14 にある、防災無線情報デジタル個別受信機購入への助成とは、具体的にどのような事業か？

幹事

- ・現在情報無線で行っている防災行政無線を、個別に受けられる受信機のこと。羽黒地域では合

併前、全戸に個別受信機が設置されていたが、昔のアナログ方式であったことから、今回のデジタル化に伴い、全て撤去していた。地域の要望を踏まえ、検討イメージとして掲載した。

委員

- ・個別受信機は本所、庁舎からの送信のみか？それとも、各集落の住民も送信できるものか？

幹事

- ・現段階で考えているのは単純な受信機で、本所や庁舎から送信し、各戸で受信することを想定している。なお送信は、エリアを設定し、地域単位で内容を変えることは可能。

委員

- ・藤島地域の資料にある超高齢化社会、高齢化社会という言葉の使い方について。通常、7%なら高齢化社会、14%で高齢社会、さらに大きくなると超高齢社会と言っていたようだが、この資料ではどのように使い分けているのか？

幹事

- ・地域内の高齢者の割合が生産年齢人口の比率に追いつくような勢いで上がっている状況をとらえた、切実な表現として使っているが、用語の適切な使い方については確認していきたい。

委員

- ・櫛引地域には21の単位自治会しかなく、旧村単位での広域コミュニティ組織がないとの話だったが、どのような状況なのか？温海もそうだが、どのような問題があるのか？

幹事

- ・櫛引は山添村と黒川村が合併してできたが、合併当初から村単位での自治組織がなく、集落自治会しかない状況である。行政とのやり取りもそれぞれの集落自治会が個別に行っており、コミュニティセンターのような住民組織内で事務補助を行う部門がない。以前、広域コミュニティ化も検討したが、現状の集落自治会体制でやって行こうということになった。ただし、コミュニティセンターがある地域と比べると、コミュニティ活動を支えていく事務の担い手が不足している状況である。今後、福祉、防災などの様々な課題に対応していかなければいけないことを考えると、行政としても体制づくりを支援していかなければいけないのではないかと認識している。

委員

- ・施策の方向が地域ごとに挙げられているが、これは施策の優先順位をつけているのか？これから予算配分を考えていく中で、優先順位をつける必要が出てくるだろうが、力を入れている施策が上の方に載っているというような見方でよいのか、それとも平均的に少しずつ進めていくのか？

(各地域の資料右側に掲載された) 検討イメージを見ると、お金がかかる事業、かからない事

業等色々あると思うが、どのような配分イメージを持っているのか？

幹事

- ・表の中の番号は優先順位ではない。地域ごとに、資料の左ページに施策の方向を定め、それに対応する検討イメージを右ページに掲載している。
事業を開始できる時期もさまざまだと思うので、掲載順によって予算をつけるのではなく、全体の中で精査しながら進めていくことを想定している。

委員

- ・資料の検討イメージに掲載された事業は、全て実施するものとして考えてよいのか？それとも、今後精査することで、実施しない事業もでてくるのか？

幹事

- ・資料の検討イメージは地域懇談会等で住民の皆様からいただいた意見をもとに作成したもの。
この案を必ず全て実施するというではない。地域単位で未来事業の中で取り組むべきか、市全体として取り組むべきものかどうか等、当会議や地域懇談会での意見も踏まえ、精査していくことになる。

委員

- ・鶴岡市全域の話になるが、これまで海沿いの地域では津波を想定した防災訓練を行っていたが、近年は豪雨災害や川の氾濫が増えている。今後、市としてはどのような防災を行っていきたいか確認したい。

幹事

- ・各コミセンにお伺いすると、防災に関するご心配の声をたくさんいただいた。現在の補助制度でも、地域づくり交付金や総合交付金で防災体制の取組を支援することができるが、その内容についても、今後検討していきたい。

委員

- ・資料1ページの4(1)に、自立分散型のまちづくり、地域が主体となって活動できる事業と掲載されており、同(2)①に他地域と著しく不公平感を生じさせないこととあるが、各地域の案についての調整は、この会議で自分たち委員が意見を出して決めていくということによいか？

幹事

- ・先ほどの各地域の検討イメージをご覧の上、委員の皆様には案についてのご意見をいただきたいと考えている。

会長

- ・今日のこの会議の趣旨は、これまで各地域で積み上げてきた計画を情報共有し、今後の地域振

興懇談会で再度協議し、精度を高めていただくことにある。そして次回の未来事業会議に持ち寄っていただくという趣旨なので、委員の皆さんから自由に意見交換を行っていただきたい。

委員

- ・鶴岡地域の場合は、コミセンにプロジェクトを考えてもらうということになるが、このまちづくり未来事業と、ステップアップ事業、パートナーズ事業との関係はどうなるのか？
- ・旧町村地域の場合、これまで地域特性を踏まえて実施してきた事業が、まちづくり未来事業に入っている。これまで実施してきた地域活性化事業を拡充する形でまちづくり未来事業に移すのか、それとも未来事業では既存事業の切り口を変えて、既存事業を補完する形とし、(既存事業も含め)全体として拡充していくのか。
その場合、これまでやってきた事業に対する検証と評価も必要となるので、そのような検討の経過も見えるようにしていく必要がある。
- ・既存事業を拡充し、未来事業に移った場合は、これまで付いていた予算は削るということがあると、未来事業の意義が薄くなってしまわないかという懸念がある。

幹事

- ・鶴岡地域ではまちづくり未来事業を補助制度で実施するが、今回未来事業計画を策定する中で、これまでのいきいきまちづくり事業、ステップアップ事業、パートナーズ事業についても、内容を精査の上、使いやすい制度にする必要があると感じたところである。
- ・これまでの地域活性化事業のうち、未来事業の趣旨に合うものは、更に発展・拡充させるという意味で、この一覧表の中に盛り込んでいる。
- ・既存の地域事業については、しっかり効果の検証を行っていききたい。

委員

- ・旧町村地域においては、人口減少が非常に大きな問題になっている。高齢化や経営規模の拡大によって、就農人口も少なくなっている。人口減少をどう食い止めるか、若者の定住をどう促進するか等、共通の課題がある中で、たとえば鶴岡市全体としてやってきた婚活事業を、各庁舎それぞれの特性に応じた切り口で進めたりと、地域住民の明るい展望につながるような事業をぜひ行ってほしい。

委員

- ・各地域の特色は特色としてあることが分かったと同時に、課題は共通しているのではないかと感じる。若い世代を含め、地域住民が元気を出せるようなプロジェクトに、この未来事業を使っていくのがよいのではないか。ここで情報を共有することで見えてくるものがあるのではないか。

幹事

- ・各地域の特色もありつつも、生活に関わる問題等、共通する部分も多くみられるので、当会議で委員の皆さまの意見をいただきながら、更に深く掘り下げていきたい。

幹事

- ・課題は共通であるというお言葉をいただいて、まさにその点なのだという認識を持った。地域まちづくり未来事業の大きな狙いとして、地域で皆さんが元気になるモデルを作ってほしい、ということがある。例えば、藤島地域で地域課題の解決につながる成功モデルが出てきた場合、それを各地域共通のものとして、全市で広げていくことも想定される。そういった意味で、各地域で色々なチャレンジ、トライをしていただきたい。ぜひ他の地域でまねしたくなるような取組の実現に向け、知恵を出し合っていたいただきたい。

幹事

- ・未来事業について検討する中で、委員が話されたように各地域共通の課題があると感じた。市ではまちづくり未来事業と並行して総合計画の見直しをしており、共通の課題も含め、全体的にはこちらでカバーしている。庁舎としては本所と連携しながら整理し、地域の特性に応じて、この地域ではこの部分をさらに伸ばしていこう、というような形で検討してきた。本所と庁舎が上手に連携することで、さらにまちづくりが進むのではないかと考えている。

委員

- ・元気になるモデルづくりということだが、今月の初め、島根県の海士町の出身の方と意見交換をしたが、色々話をする中で、やればできる、という感じを持った。また、今年から小学5年生の社会科の授業を手伝っているが、教科書で、庄内の米作り、農業は非常に大きく、17ページくらい取り上げられている。特に藤島の試験場や、はえぬき、つや姫の話が取り上げられている。そのあたりに、これからの食農教育や、人材育成、全国に鶴岡、庄内をアピールするヒントがあるのではないかと感じを持っている。
- ・交流人口、関係人口を増やす体験型農業、体験型観光にも結び付け、まず関係人口を増やすことで、鶴岡の応援団を増やし、人口の維持につなげることができるのではないかと。
- ・海士町の方がいうには、「うちの町には、ないものはない」そういったキャッチフレーズで人を呼び込み、若い人が増え、廃校寸前になった高校が復活するという例もある。鶴岡は幅広い分野の高校以上の高等教育機関があるし、人材育成に最適な場所だと思う。全市共通の課題や、各地域の多様性、独自性もあるので、制度の枠組み、フレームをしっかりと整備していけば、よい事業ができるのではないかと。

委員

- ・健康寿命を伸ばすような事業を各地域で考えているようなので、介護が必要な高齢者を支援するのも必要だが、健康な高齢者がもっと健康になるような、いきいきと暮らせていけるような事業を、各地域でも実施してもらいたい。
- ・市営バスの関係だが、各地域内で各々異なる市営バスの運営方法になっている。特に朝日地域の場合、土日祝日は運行していない。買い物にも行けないという状況があるため、高齢者がもっとバスを使えるような施策を考えてもらいたい。
- ・自主防災については、地域内に若者が少なくなっているため、消火栓やホース等の設備について、高齢者でも対応できるような形で整備してもらいたい。

- ・防災無線が反響して聞こえない。先日、自治会で自主防災訓練を行ったが、役に立たなかった。いざという時に連絡ができないのは問題なので、施設整備についても検討し、未来事業に盛り込んでほしい。

幹事

- ・朝日地域の資料には、個別具体的には記載していないが、今いただいたようなお話については検討の材料としている。市営バスについては現在アンケートを取っており、土日の利用も含めた需要がどれくらいあるのか、12月からは実験運行を実施する予定である。防災無線については、私も訓練の際その場におり、状況は承知している。基地局が櫛引と朝日にまたがる地域であるため、連携して改善を図っていきたい。

委員

- ・事業を進めるにあたっては、各地域の自治振興会と事務局が一番大変になるだろう。

委員

- ・今回上がってきた事業を実施するには、多くの職員が必要となる。これが未来事業が成功するかどうかの大きなポイントとなる。この点は次回の話題としたいと思うが、一番大事なのは、事業を誰が、どのような仕掛けで推進するかという点であり、市民をいかに動かすかということである。庁舎職員に非常に多くの負担がかかるような展開ではなく、地域の既存のサークルや団体、もしくは新しい組織づくりも展望しながら、事業展開を検討する必要がある。

会長

- ・地域庁舎のあり方については、次回以降の検討とするが、未来事業の推進体制も含めて、市としてのより具体的な調整を終えてから、協議いただきたいと考えている。

委員

- ・先ほどの優先順位の質問にもつながるが、各地域の検討イメージには、人口の減少を遅らせる、住んでいる人を大事にするというような内容が必ず入っているが、言い方は悪いが、当たり前話でもある。先ほど幹事から話があったが、せっかく地域まちづくり未来事業と銘打っているので、各地域で、もう少し冒険的な事業であるとか、未来事業で目玉になるような事業を決めたほうがよいのではないかと。検討イメージには多い地域で22以上の事業が掲載されているため、正直なところ全部実施するのは難しいのではないかと思う。今回の未来事業ではこれをやりました、と言えるような企画を考えた方がよいのではないかと。

委員

- ・予算と人力の集中が勝負になる。これだけの事業をやろうと思うと膨大な人力が必要になる。優先順位をつけ、集中して取り組み、はっきりとした成果を見せるということが重要。
- ・羽黒の地域振興懇談会で話をすればよかったが、羽黒には日本遺産が2つあり、インバウンドの外国人観光客も増えている。そういった状況もふまえ、随神門前の公衆トイレについて、き

れいなトイレに整備してもらいたい。随神門は周辺観光エリアの中でも一番大事なところであり、観光客のみなさんがよく利用するところであるが、外国人客にトイレを案内するとびっくりされてしまう状況である。誰でも入りたくなるようなトイレに整備してもらいたい。

- ・高齢者への支援策にあわせて、若手世代への支援策も強力にしていく必要がある。たとえば、育英会の経営基盤強化、鶴岡に残る人への給付型の補助等。先日秋田県の東成瀬村に視察に行ったら、小中学校の給食費は無料、保育料を1人目は半額、2人目以降は無料としていた。

委員

- ・地域の課題は共通するものがあると思う。人口減少が顕著であるというのが、温海・朝日地域の共通の課題と思うので、地域によって事情が異なる部分もあるかもしれないが、同じような事業に関しては同じ方法で進めるのがよいのではないか。例えば、朝日地域の2番、地域内生活交通確保対策事業は、温海地域の19番、遠距離通学高校生支援事業が全く同じような事業だと思うので、同じノウハウでやるようにすれば、多すぎる事業をコンパクトにすることができるようになるのではないか。温海地域2番の温泉街賑わいづくり事業の温泉街植栽の推進は、羽黒地域の観光地花いっぱい事業と共通する部分がある。このような共通する部分については情報共有していくべき。
- ・遠距離通学高校生支援事業については、私も高校時代、あつみ温泉駅から市内の学校に電車で通学していたが、当時も鶴岡に引っ越し友人がいて、そのころから人口流出が続いていた。温海から鶴岡への引っ越しでは、鶴岡市全体の人口は変わらないので、市として問題とはみえにくい部分だと思う。ただし、温海地域にとっては人材の流出は深刻な問題である。高校進学を機に、家族ごと鶴岡地域に引っ越しというのはよくあるパターンなので、こういった同じ問題を持つ地域の間では、ノウハウを共有しながら進めてほしい。

(2) その他

5 その他

幹事

- ・次回会議は12月中をめどに開催したいと考えている。決まり次第連絡する。

6 閉会

以上